国営昭和記念公園 昭島口再整備基本計画（案）概要版

国土交通省
資料３

現状と課題

Ⅰ 周辺環境の変化と施設老朽化

1）立川基地跡地昭島地区のまちづくりの進展

・基地返還時に留保地等とされた昭島地区は平成24年に区画整理に着手以降、法務省施設、住宅地、商業施設、清掃工場等が順立地。



近隣に整備されたマンションや商業施設

・昭島口はゲートとしての視認性が低く、まちづくりの進展と合わせて昭島市側に開かれた 玄関口としての改善が望まれている。


現在の状況（昭島口ゲート入口）

2）レインボープールの運営終了

・昭和60年度供用開始から、夏のシンボル施設として親しまれたが、老朽化のため令和元年度営業後に運営終了。


現在の状況（プール）

Ⅱ顕在化した公園の課題

1） 混雑の偏りに対応した快適な利用環境づくり

①駐車場の混雑の緩和
→繁忙期に駐車場の満車が頻発


繁忙期の周辺道路の様子

②ゲートの集中の緩和
→特定のゲート利用が集中

③新たな魅力の創出による回遊性向上
→花の見頃時に特定箇所での利用が集中

④イベントの受け入れ能力の拡大
→春・秋の週末は「ゆめひろば(2.5ha)」ではイベント受け入れがほぼ限界に達している状況

2）猛暑日等の気象条件に対応した取組の充実

・猛暑時期など閑散期に対応した魅力の創出
・開園時間外の取組の充実
→猛暑に対応した公園運営の工夫（夜間開園）


夏の夜間ライトアップの様子

基本テーマ

「自然が持つ本質的な価値を感じるきっかけづくり」

～社会的背景と本エリアが目指すもの～

気候変動や生物多様性の損失など、地球規模の課題が深刻化する中、世界ではNbS（Nature-based Solutions：自然を活用した解決策）やネイチャーポジティブなど、生態系を構成する人間を含めた自然を基盤とした持続可能な社会への転換が求められている。

また、AI等を活用したDXの進展により、生活の利便性や生活の質（QOL）が向上する一方、自然との触れ合いや人との交流がもたらすWell-beingや、人と自然との関係性を見直す重要性が高まっている。こうした社会的背景を踏まえ、本エリアでは、**誰もが気軽に訪れ、自然が持つ本質的な価値を感じるきっかけを創出し、その先にある深い体験や学びへつないでいくことを目指す。**

基本方針

① 誰もが気軽に利用できる街と公園を結ぶシームレスな結節空間

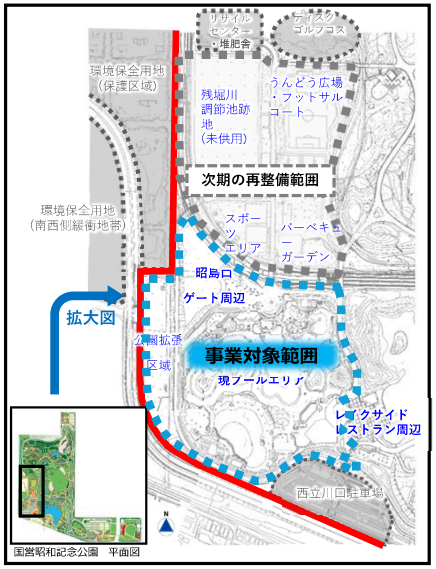
アクセス性の向上を図るとともに、多様な活動や交流を生み出すイベント広場を整備し、街と公園を結ぶ開かれた無料区域を創出する。

② 自然の価値への気づきの機会創出

生物多様性の確保や雨水浸透等のグリーンインフラを通じて、自然の恵みや機能を身近に感じる機会を創出し、園内（有料区域）における体験や学びへとつなげる。

③ 多様な主体との共創

市民・企業・専門家・行政など多様な主体が参画し、公園での活動や柔軟な利活用を通じて、各々が楽しみや喜び、やりがいを感じながら公園の価値をともに育て、未来へつなぐ活動の展開へつなげる。



エリア名称・コンセプト

「めぐりのエントランス」（仮称）

「めぐり」には、水や緑、生きもの、人々の活動がつながり循環することに加え、このエリアを起点として来園者が公園全体へ巡る意味を込めている。

また、既存有料エリアの風景や魅力を感じられる心地よい空間を形成し、公園全体を想起させるとともに、自然との出会いや気づき、有料エリアでの体験へとつながる「きっかけ」を創出する。

空間構成概念

～本公園の園内全域を想起させ、人々にとって居心地の良い空間とする～

ゾーニング図

① エコロジカルネットワークの確保
② 水の景観の連続性の確保
③ 公園の西側の新たなエントランス
④ 広場空間の創出
⑤ 駐車場の拡充



有料区域の変更
（昭島口周辺エリアの無料化）

基本計画図

